

残そう、自然の宝石箱・のりくら



# くらがね通信

No.37 (夏号)

乗鞍岳と飛騨の自然を考える会

平成 21年 8月 1日発行

## 好評だった公開講座・観察会・図譜展

今年度前半の事業である、公開講座「自然談話室」(3回)、乗鞍岳自然観察会、植物図譜展は多くの方が参加してくださいました。参加者から「また行きたい」「今度はどんな話なの」「植物や自然の見方が変わった」などの声が聞かれました。

### 《公開講座・自然談話室》



### 《自然観察会・乗鞍岳》



### 《小野木三郎の楽老植物図譜展～ひだの植生～》



9月の『自然談話室』

9月25日(金)

「皇居の自然って面白い」

小野木三郎

場所：高山市民文化会館

時間：夜7時より

◎ 今春、訪れた皇居の自然をスライドで紹介します。

## ☆公開講座『自然談話室』

### 「ボルネオの自然を通して生物多様性と地球温暖化を考える」(6/19) 飯田 洋

ボルネオ島の北部マレーシア領へ視察に行きその報告をしていただきました。

見晴らしの良い高台に立つと、眼下には一面の緑が広がっている。しかしそれは熱帯雨林ではなく植物油（パーム油）の原料であるアブラヤシの畑である。ここで生産されるパーム油の量は世界一であり、「コンビニやスーパーで売られている加工食品の95%にパーム油が使われている」といわれている。日本におけるパーム油の消費量は、なたね、大豆について第3位で、その99%をマレーシアから輸入している。

パーム油生産の経済率を上げるために、鬱蒼とした熱帯雨林が次々と伐採され大規模な開発が進み、1億年以上もかけて進化した産物の貯蔵庫出であり、又生物多様性の地域が消滅しようとしている。そしてこの地域に生息するオランウータン、ボルネオゾウなどの動物や貴重な植物なども絶滅の危機に瀕している。またそれによって温暖化をもたらすとされるCO<sub>2</sub>の吸収量は下がり、地表面の温度上昇などをもたらす地球温暖化を早めていると危惧されている。

2004年に「持続可能なパーム油のための円卓会議（RSPO）」が設立され、アブラヤシプランテーションに対する、環境や生物多様性を守るパーム油生産の基準が定められた。「RSPO認証制度」による規制も始まり既にこの認証パーム油を使用した製品も出始めている。自分の手を汚さずに、ボルネオの熱帯林、生物多様性を破壊している私たちに出来ることは、その製品がどのような環境で作られたかを知り選ぶことであり、それは現地に生きる人々と自然との関係を持続可能にすることに繋がる。

2006年に設立されたNGO「ボルネオ保全トラスト」では最も大きなダメージを受けている地域の土地を買い戻し「緑の回廊」作りを進めている。計画通りに進めばオランウータンの生存率は95%に上昇するというデータがある。パーム油を利用している欧米や日本の企業、消費者にも、ボルネオの生物多様性を守る『行動』が求められている。



ボルネオの環境をスライドで解説

### 「知ってましたか？花の知恵」(5/15)・「生物多様性って？」(7/3) 小野木 三郎

○ 野山へ出かけて花を見て楽しむ人は多いが、名前だけにこだわり花を良く見ていない人が多い。植物は子孫を残すためにそれぞれ様々なつくりをしている。そのつくりをじっくりと見て欲しい。おしべやめしべ、花びらや葉、がくなどがどのようなつくりになっているのだろうか。じっくり見ることによってそれぞれの植物の子孫の残し方が分かってくる。

○ 地球に生命が誕生して以来、生物は長い時間をかけて徐々に進化しながら現代に至っている。地球の植生分布は気温、降水量によりいくつかに分けられ、多様な生態系が見られる。

生物多様性というと「種の多様性」を連想するが「生態系の多様性」「遺伝子の多様性」もある。また、多様性を脅かしている事例として、「里山の機能を失った日本の現実」「生息地の破壊」「外来生物による日本の生態系の破壊」があげられる。

## ☆自然観察会 残雪期の乗鞍の自然 (6/14)



遊歩道のそばにライチョウが（魔王岳）



大黒岳を登る



多くの登山者や観光客。雪原にも行列が



昔の乗鞍を小笠原さんの解説で聞く（乗鞍自然展示館）

◎ 時々小雨が降る天候で視界は良くなかったが、以前旗峰郵便局に勤めてみえた小笠原昌一さんから昔の乗鞍の様子を語っていただきながら魔王岳、大黒岳、鶴ヶ池周辺を散策。遊歩道すぐ近くでライチョウが長時間見張りをしていた。帰りのバスの車窓からもライチョウが見られた。

## ☆ 小野木三郎の楽老植物図譜展～ひだの植生～ (6/30～7/5)

主催：乗鞍岳と飛騨の自然を考える会・飛騨高山ふるさとを歩こう会・各務原市民の森を育てる会・各務原シデコブシを守る会



写真や植物スケッチ画など約120点が展示された図譜展には連日多くの方が観賞、小野木さんの解説に耳を傾けたり、テーブルでは展示しきれなかったスケッチ画や著作本に目を通していました。

チャリティ

第1回  
飛騨高山

山仲間が美しき自然を捉えて贈る  
山岳映画の夕べ

【共催】飛騨山岳会・山岳映画サロン

2009 9/3(木) 時間：18：30～21：00 場所：高山市民文化会館  
(入場整理券が必要)

◎ 当会も協賛しています。 ◎ 問い合わせ・詳細は同封チラシをご覧ください

# 御嶽山展望スポット

その2. 朝日町鈴蘭峠



下呂市小坂町から鈴蘭高原へと向かい標高 1350mの峠に着いてまず目に飛び込んでくる山が御嶽山、その左には乗鞍岳の全容も見られる。(くらがね通信 No23)

残雪期の御嶽山では 2500mラインがはっきりと区別され遠くからでも森林限界が見分けられる。左端が継子岳。前号で紹介した日和田富士を横から見ていることになる。

**編集後記：**自然談話室はほとんどが映像を見ながらのお話と解説でした。紙面では伝えられないのが残念です。しかも、小野木さんの話はダジャレ、ユーモアのオンパレードで楽しい。7月3日は図譜展に合わせた企画で、会場は80人を超える人でいっぱいだったため座れなかった人もみえました。

◎ 寄 付：自然派パン・スイーツ タニコシ・岡村 誼 有難うございました

■ 会 員 状 況：平成21年7月末会員数 個人・家族113・団体 3

■ 新 入 会 員：小原靖子

くらがね通信 第37号 (夏号) 平成21年 8月 1日発行

発行者 乗鞍岳と飛騨の自然を考える会 〒 506-0055 岐阜県高山市上岡本町 4-218-3 飯田 洋

TEL 0577-32-7206 ・ FAX 0577-32-7207

編集室では皆さんからの原稿、ご意見等をお待ちしています。

■ 編集責任者：宝田 延彦 E-mail：nobu1995@peach.ocn.ne.jp TEL(FAX 兼) 0577-34-1287

■ 編 集 者：住 寿美子 TEL 0577-34-7237

表紙写真提供：小池 潜

印刷：アドプリンター